

つちおと

令和元年7月1日発行
宮城復興局気仙沼支所

気仙沼市笹が陣3-5
気仙沼市シルバー人材センター内

6/18 渡辺復興大臣が気仙沼市を訪問 ～ 被災地からの声を聞き続ける ～

大島大橋にて((左から)渡辺大臣・菅原市長・菅原市議会議長)



水産加工場での意見交換



6月18日、渡辺復興大臣が気仙沼市を訪問しました。昨年10月に引き続き2回目の気仙沼入りとなります。渡辺大臣は、気仙沼大島大橋等を視察し着実に進んでいる復興を確認するとともに、水産加工場にて販路開拓等、様々な現在の課題について意見交換を行いました。また、3月に開館した将来にわたり震災の記憶と教訓を伝える東日本大震災遺構・伝承館を視察しました。

気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館



遺構・伝承館を視察

5/29 大使らが気仙沼市・南三陸町を御訪問



南三陸町旧防災庁舎へ向け献花されるリトアニアのバルブオリス大使



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館にて



漁業者から震災時の体験を聴き、ホヤやホタテ等を食す

5月29日、復興に向かう被災地の姿や魅力を伝える復興庁『復興五輪』海外発信プロジェクトの一環により、アンゴラ、スロバキア、ハイチ、モルディブ、リトアニアの5か国の在日大使館から大使並びに令夫人ら7名が気仙沼市、南三陸町を御訪問されました。気仙沼市では東日本大震災遺構・伝承館を見学し、南三陸町では漁港にて直接漁業者の方から震災時のお話を伺ったほか、ホヤやホタテ等を楽しみ、また、南三陸さんさん商店街において献花し、哀悼の意を表されました。

6/21 金 気仙沼油槽所が完成

～ 地域漁業を支える ～

6月21日、漁船に燃油を供給するための拠点施設である朝日町の「気仙沼油槽所」が竣工しました。同油槽所は東日本大震災で被災しましたが、復興交付金事業である津波復興拠点整備事業により造成・地盤改良された約1haの土地に、中小企業組合等共同施設等災害復旧事業の活用により津波対策が施されたタンク計5基が設置されました。総事業費は約26億円となりました。

竣工式には県及び市や、施工業者、石油元売り事業者等約100名もの関係者が出席しました。気仙沼市の漁業、ひいては水産業の復興加速への貢献が期待されます。



6/25 木 東北復興水産加工品展示商談会

～ 東北産を求めて全国から ～



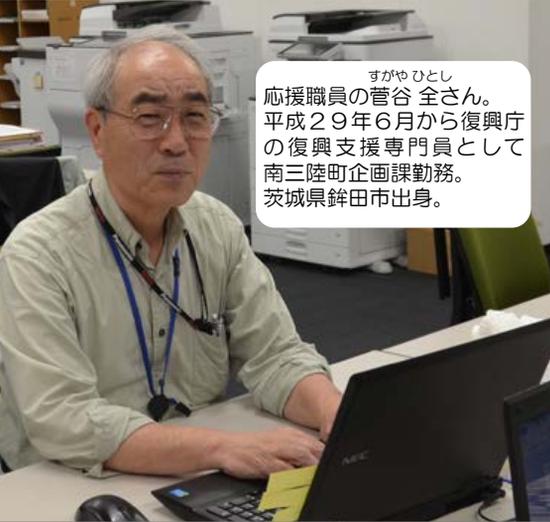
6月25日と26日の両日、仙台国際センター展示棟にて「東北復興水産加工品展示商談会2019」が開催されました。着実に復興は進んでいるものの、被災地域の基幹産業である水産加工業にとって、販路回復、風評被害払拭への取り組みは、原材料不足、人材不足と並び依然として最大の課題です。同商談会は、東北地方の水産加工業者とバイヤー等とのマッチングの場を設けるべく開催され、今回で5回目となりました。当日は、青森、岩手、宮城、福島、茨城から131社の水産加工業者が出展し、橋復興副大臣をはじめ多くの関係者がかけつけました。



イチオン商品をプロの料理人が調理し、魅力をアピールする今回の新たな取組み「ライブキッチン」

応援職員だより

～ 絆の架け橋として ～



すがやひとし
応援職員の菅谷 全さん。
平成29年6月から復興庁の復興支援専門員として南三陸町企画課勤務。茨城県銚田市出身。

主に情報処理の分野で南三陸町のお手伝いをしています。各種情報システムの運用及び管理、マイナンバー制度に伴う安全管理措置の構築、ICTに関わる知識の普及、利用しているネットワークの安全かつ適切な運用等が私の仕事です。毎日のように起こるトラブル対応等で慌しく時間が過ぎていきます。微力ながら、出来る限りお手伝いをして、地元に戻ろうと思っています。

南三陸町は魚介類が実に美味しい所です。私の地元茨城県銚田市は農業がとても盛んです。メロンは生産量日本一です。南三陸町の良さを地元伝えることはもちろん、銚田市の良さをこちらに伝えることも私の隠れたミッションなのではと思っています。

去年は、銚田市に声をかけたところ、南三陸町産業フェアに参加することになり、市長をはじめ多くのスタッフがバスで来ました。大盛況でした。スタッフ一同は、南三陸町に対して、とても良い印象と心地よい疲れを持って帰って行きました。



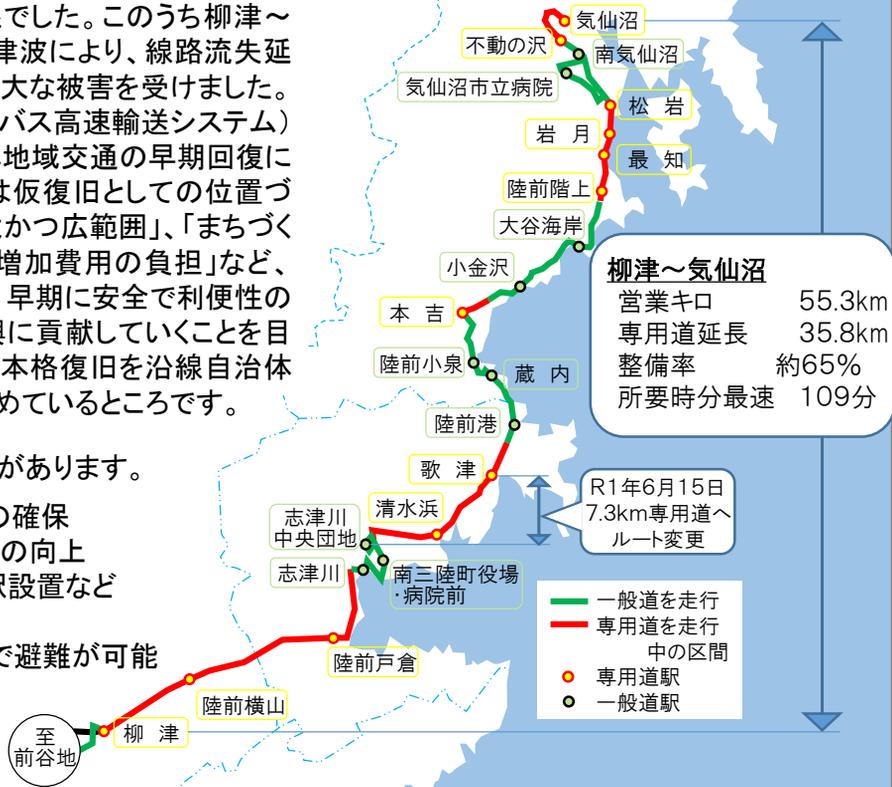
銚田市から産業フェアに参加

進む震災復興【JR気仙沼線BRTによる復旧】

～ 速達性・定時性が向上 ～

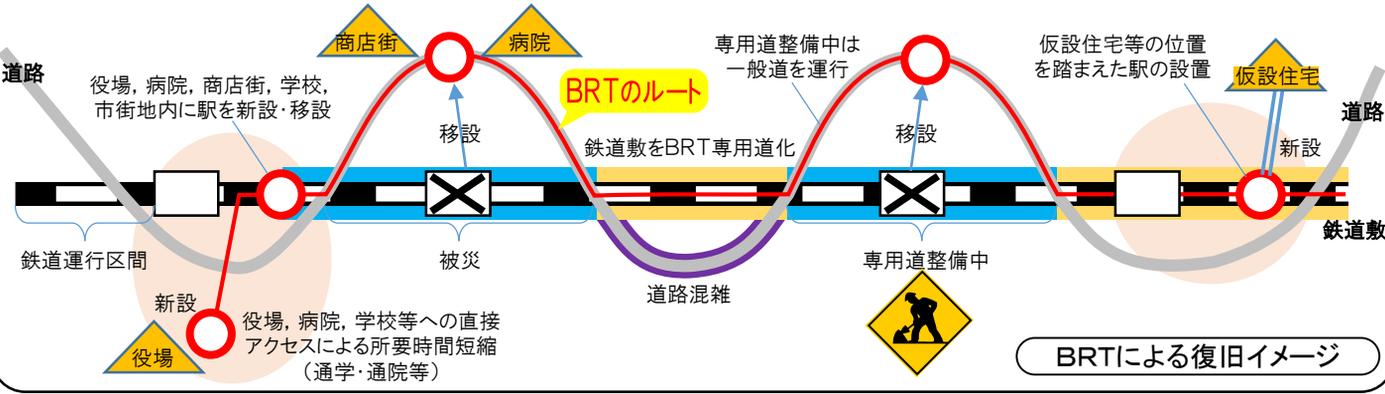
JR気仙沼線は、前谷地(石巻市)～柳津(登米市)～気仙沼(気仙沼市)間72.8kmを結ぶ鉄道路線でした。このうち柳津～気仙沼間55.3kmは、東日本大震災の津波により、線路流失延長が18.9km(線路流失割合34%)と甚大な被害を受けました。JR東日本では、平成24年8月からBRT(バス高速輸送システム)による暫定運行(代行バス方式)を開始し地域交通の早期回復に取り組みました。当初、BRTによる運行は仮復旧としての位置づけでしたが、「気仙沼線では、被害が甚大かつ広範囲」、「まちづくりに伴うかさ上げを待った後の復旧」、「増加費用の負担」など、鉄道復旧には多くの課題があることから、早期に安全で利便性の高い輸送サービスを提供し、地域の復興に貢献していくことを目指した上で、平成28年3月にBRTによる本格復旧を沿線自治体と合意し、現在BRT専用道整備を鋭意進めているところです。

気仙沼線BRT路線図



BRTによる復旧では、以下のような特徴があります。

- ① 専用道整備による速達性、定時性の確保
- ② 運行頻度を高めることによる利便性の向上
- ③ まちづくりに合わせたルート設定、駅設置など柔軟な対応が可能
- ④ 地震・津波発生時も可能なところまで避難が可能
- ⑤ 専用道整備中は一般道を活用



■新たに7.3kmが専用道にルート変更

令和元年6月15日、南三陸町の志津川中央団地～歌津間の7.3kmが新たに専用道へルート変更されました。これにより、柳津～気仙沼間55.3kmのうち35.8kmが専用道経路となり、専用道比率が将来計画約9割に対し約6割まで進捗した上で最速運転時間も4分短縮され、速達性と定時性が更に向上しました。

JR東日本仙台支社様からは、「今後も約9割の専用道化に向け、無事故無災害で工事を着実に進め、速達性、定時性の向上に努めるとともに、その他駅舎やロケーションシステム等各種整備の充実により、お客様の利便性の向上を図り、被災地の復興の一助となるべく努力して参りたい。」とのお話を頂きました。



6月15日に専用道化された歌津駅



柳津駅付近

◆支所長コラム

6月1日、2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会が、五輪聖火リレーのルート概要を発表し気仙沼市が県内スタート地点に決定されました。聖火は来年3月26日、福島県楡葉町サッカー施設「Jヴィレッジ」を出発し、47都道府県を121日間で約1万人がリレーするとのことで、宮城県内では約1年後となる来年6月20日に気仙沼市から南三陸町を通して南下する予定となりました。聖火リレーは、「復興五輪」として沿岸部をメインとしたルートとされており、大震災後の被災地の町並みや、人々の復興に対する力強さを発信させ、国内外へ広く知っていただくことが期待されていると思います。本支所だより「つちおと」も、継続的に市町の復興進捗状況や、地域の話題を積極的に発信していきたいとあらためて感じたところです。(高信)

復興関連イベント

各地で開催される復興イベントをご紹介します。

【7月下旬～8月下旬】～気仙沼市～ 気仙沼湾サンセット& ナイトクルージング宿泊プラン

気仙沼湾のクルージングと宿泊がセットになったプランがこの夏始まります。気仙沼湾の夕暮れや、ライトアップされた新魚市場などを船の上から楽しめるプランで、市内7つのホテルから宿泊先を選べます。

開催日：7/20(土)、7/27(土)、8/9(金)

8/10(土)、8/17(土)、8/24(土)

気仙沼観光コンベンション協会 0226-22-4560

【7月27日(土)】～南三陸町～ 志津川湾夏まつり福興市

志津川仮設魚市場特設会場にて開催される同イベントでは、南三陸の特産品を始め、縁日コーナーなどのテントが立ち並びます。夜には、「とどけ南三陸の夢」をテーマに打ち上げ花火もあがります。

南三陸福興市実行委員会

<http://www.m-kankou.jp/>



21日、みらい造船吉田工場でさんま棒受け網漁船(199t)が進水したよ!



これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

復興庁HP (<http://www.reconstruction.go.jp/>) ⇒ 宮城復興局 ⇒ 気仙沼支所だより「つちおと」

【編集後記】

◆シャツの上にもう一枚羽織るかどうか。悩む時期はもう少し続きそうですね。

「つちおと」発行元(お問い合わせ先)

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話 0226-23-5301、FAX 0226-23-5310